

季節の風景 4月

山笑ふ



枯れてひっそりとした冬の山にも、やがて春は訪れます。木々は芽吹き、草は萌え出し、山々は瑞々しい命で満たされるようになって、冬の印象からは一変します。そんな山の様子を「山笑ふ」と表現します。春の「山笑ふ」の他に、夏の「山満る」、秋の「山装ふ」、冬の「山眠る」も俳句の季語になっていますが、いずれも中国の山水画家の郭熙の言葉に由来しています。

私たちの祖先は、高い山岳だけでなく、森や林も山と呼びました。「山笑ふ」は、暮らしの近くにあった小山や林など、今でいうところの里山にあたるものです。朝晩、山を眺めながら、季節の移ろいを実感するのは、明らかに落葉樹の山です。芽が出て若葉・青葉が茂り、紅葉し落葉して、冬眠に入るのは落葉樹の周期です。しかし、落葉樹だけでなく、シイやクスなどの常緑樹が混じった混合林ではなかったのでしょうか。多数の生態系が山の起伏にあったからこそ、笑ったり眠ったりの複雑な表情が生まれたのだと思います。スギばかりの山は春になっても笑わないし、冬でも眠りません。人間と共生する森には常緑樹と落葉樹が必要不可欠なのです。

春先、花粉ばかりを撒き散らしているスギ林に、落葉樹を植えて反自然林にしようという運動が行われているそうです。スギ林が早く「笑ふ山」になってくれたらと願っています。



▲最後は出演者全員と会場と一緒に盛りあげました

「志国高知 幕末維新博」開幕
高知城で谷千城ミュージカル上演

3月4日、「志国高知 幕末維新博」のオープニングイベントが開催されました。尾崎県知事や俳優の高橋英樹さんらが出席し、豪華なステージイベントが催される中、四万十町の「谷千城ミュージカル」が上演されました。

住民らによる地元出身の偉人を称えるミュージカルは県内でも例がなく、約500人の観客が見入っていました。現代の世相をユーモアたっぷりに織り交ぜながら干城の人生を描くステージは時折会場から笑いがおこり、「話がうまくつながっていておもしろかった」「歌がうまい」と好評でした。

また、高知を訪れていた神奈川県在住の干城の子孫・谷光弘さんも初めて観劇し「町の皆さんが先祖を誇りにしてくれている」と感動していました。



▲メンバーと谷光弘さん（最後列右から3人目）

桜マラソン「イベント民泊」県内ではじめて実施



▲ランナーと受入家庭の交流

今回の第9回桜マラソンで、県内ではじめての「イベント民泊」を実施し、マラソン前日に10軒の受入家庭で県内外25人のランナーを受け入れました。受入家庭からは「他県の人たちと交流できて楽しかった」「また次回も受け入れたい」、ランナーからは「気持ちよく過ごせた」「四万十町の日々のことが知れてよかった」「また民泊を利用したい」と好意的な意見が多く寄せられました。観光協会では今後もイベントでの民泊を企画します。その際には広報などでお知らせしますので、皆様のご協力をお願いします。

チャレンジライド

3月11日、早春の四万十川を駆け抜ける自転車イベント「第5回四万十・足摺無限大チャレンジライド」が開催されました。

当日は「ロングコース」「無限大コース」にエントリーした県内外からの参加者約180人が、四万十町の景色を楽しみました。

道の駅四万十大正に設置されたエイドステーションでは、であいの里スタッフを作るあたたかいうどんと生姜大福を楽しんでいました。



▲四万十川沿いを疾走するライダー

今月の
人オムツリ

おもしろきこともなき世を
おもしろく！



▲高杉晋作についての説明資料もあります！

前回の松本千花さんについて、今回も地域おこし協力隊の一員として町営塾「じゅうく。」の運営に参加している、森脇瑞穂さんをご紹介します。

森脇さんは、島根県松江市（旧美保関町）出身の23歳。地元を卒業後、一年の浪人生活を経て、東京の国際基督教大学（ICU）に進学。ご本人いわく「はじめは、お金を稼げる人になるための自分流の進路選択でした。早く家族から独立したかったというのがその時の最大の理由でした」。

ICUに入學すると同時に、学校の寮に入りました。寮生に

は、当時の森脇さんから見ると「変わった人」がたくさんいて、いわばカルチャーショックのようなものを感じることになりました。「今思えば、変わっているのではなく、それまでの自分から彼らの方ではなかっただけなんです。2年間の休学を決心し、岡山県和気町の地域おこし協力隊に参加することになりました。そこでも、教育関係のプロジェクトに関わっていたそうです。そして今年2月、四万十町の地域おこし協力隊員となり、町営塾「じゅうく。」に加わることとなりました。

お母さんや、その弟であるおじさんも26〜27歳で亡くされている森脇さんは、27歳で亡くなった幕末の志士・高杉晋作の生き方に共感するのだそうです。

「おもしろきこともなき世をおもしろく」森脇さんの生き方にびびりなかもありません。



もりわき みずほ
森脇 瑞穂さん
(榊山町)